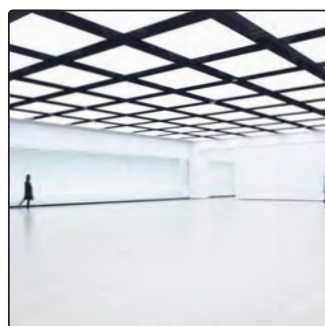


静岡市美術館 2020.4-2021.3

10^{しずび}th
ANNIVERSARY
SHIZUOKA CITY
MUSEUM of ART



しずび

は

開館10周年

をむかえます



【プレスリリースのお問い合わせ】 担当:伊藤 広報担当:大庭・岡田

静岡市美術館

SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F info@shizubi.jp

Aoi Tower 3F, 17-1, Koyamachi, Aoi-ku, Shizuoka, 420-0852 JAPAN

tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp



“しずび 10周年”—— 静岡市美術館は、駅から徒歩3分、JR 静岡駅北口の「葵タワー」3階に2010年5月に開館、同年10月にグランドオープンしました。今年開館10周年を迎えます。開館以来、「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」を基本理念に、幅広いジャンルの展覧会を開催し、また、広いエントランスホールや多目的室、ワークショップ室などの交流ゾーンを活かして、現代のアートシーンの紹介や講演会、ワークショップ、コンサート、映画上映など多彩な事業を展開してきました。

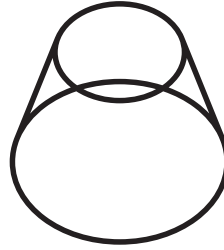
開館10周年を記念して、4月から1年間、様々な事業を展開します。これまでの活動をもとに、新たな企画にも挑戦し、さらに一層、誰もが気軽に立ち寄れる“まちの中の広場”のような美術館として、次の10年に向け歩みを続けます。“しずび”のこれからにご注目ください。

【沿革】

2006年3月	「静岡市文化振興ビジョン」策定
2007年3月	「(仮称)静岡市立美術館 基本計画」策定
7月4日	「葵タワー」着工
2008年3月	「(仮称)静岡市立美術館運営実施計画」策定
2009年7月8日	美術館内装建築工事着工 [内装設計：(株)丹青研究所、内装建築工事：(株)木内建設]
7月16日	静岡市美術館条例制定
11月12日	静岡市美術館条例施行規則制定
2010 年3月24日	静岡市が(財)静岡市文化振興財団を指定管理者に指定
4月1日	「葵タワー」オープン
5月1日	静岡市美術館開館 ・完成記念式典開催 9月30日まで展覧会関連事業および交流事業を実施
10月2日	グランドオープン (展覧会事業開始) 開館記念展<I>「ポーラ美術館コレクション展 印象派とエコール・ド・パリ」開催
2011年5月9日	美術館のロゴマークなどヴィジュアル・アイデンティティーが世界3大広告賞のひとつ「The One Show 2011」の銀賞を受賞
2012年1月4日	美術館エントランスホールに漆芸作品「東海道五十三次ひとめ図」設置
2013年9月14日	来館者100万人記念式典開催
2014年5月2日	静岡県教育委員会より博物館相当施設に指定
2015年3月20日	静岡市が(公財)静岡市文化振興財団を第Ⅱ期指定管理者に指定
5月1日	静岡市美術館開館5周年
2017年8月18日	展覧会観覧者100万人達成
2019年10月10日	来館者300万人達成
2020 年	静岡市美術館開館10周年

美術館のロゴマークと 10 周年記念ロゴマーク

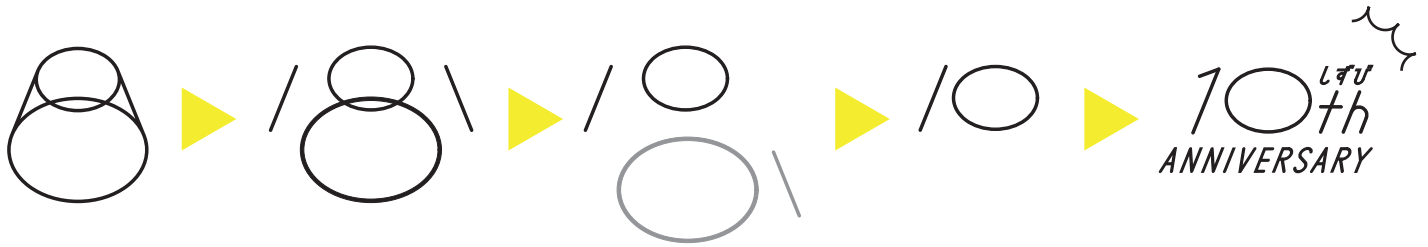
美術館のロゴマークは、静岡、そして日本を象徴する富士山をモチーフにしています。重ねられた2つの円には、美術館を中心とした人の輪の広がり、地域と世界を結びつなぐイメージが表されています。また、視点と奥行きの変化による“視ることの楽しさ”にも気づかせてくれます。



10周年のロゴマークは、全体を斜体にすることでスピード感を出しています。これまでの歩みを引き継ぎ、時代の変化を見据えながら進む美術館の姿をイメージしています。

デザインは、館のロゴマークを手がけたアートディレクターの柿木原政広氏によるものです。

【10周年記念ロゴマークのひみつ】



10周年企画① 開館 10周年記念スタンプラリー



※画像はイメージです

2020年4月から2021年3月開催の展覧会のうち、3つの展覧会をご観覧いただいた方、先着300名様にしずび10周年オリジナルバックをプレゼント！

*スタンプラリーの台紙は年間スケジュール中面にあります。静岡市美術館、全国の美術館等で配架されています。

*1人1回限り、本人のみ有効、他人への貸与・譲渡はできません。

*紛失破損などの際の再発行はできません。

*プレゼントの内容は変更する場合があります。

スタンプ押印期間：2020年4月11日（土）-2021年3月31日（水）

記念品引換機関：2020年8月1日（土）-2021年4月30日（金）

引換場所：静岡市美術館受付

今年度も多彩な展覧会を展開！

日・チェコ交流100周年 ミュシャと日本、日本とオルリク めぐるジャポニスム

2020年4月11日(土)ー5月24日(日) ※会期中展示替えがあります。

チェコ出身でジャポニスムに沸くパリで活躍したアルフォンス・ミュシャ(1860-1939)の絵は、1900年創刊の雑誌『明星』で紹介され、藤島武二ら日本の画家たちに影響を与えました。また、プラハ生まれのエミール・オルリク(1870-1932)は、1900年から翌年にかけて来日。浮世絵版画を学び欧州に新たな木版表現をもたらした一方、滞日中に制作した石版画は日本の画家たちを大いに刺激しました。これらの動きは、グラフィックを介したジャポニスムとその還流と捉えられます。本展ではミュシャとオルリクに加え、背景としてのチェコのジャポニスムを紹介するほか、ウィーン分離派や明治・大正期のポスター、版画、書籍など400点以上を展示し、表現の東西交流を探ります。

アルフォンス・ミュシャ《「ジョブ」ポスター》1898年 三重県立美術館



静岡市美術館開館10周年記念 東海道の美 駿河への旅



当館企画による展覧会
静岡のみで開催！

2020年6月6日(土)ー7月19日(日) ※会期中展示替えがあります。

江戸時代、街道の整備により旅が流行し、東海道を主題にした絵画が多く生み出されました。駿河の国は名所・旧跡や富士山を望む景勝地に恵まれ、東海道の絵画に欠かせない地です。本展では駿河の風景に注目し東海道図屏風や歌川広重の保永堂版東海道など、旅と風景が生み出した豊かな世界を紹介し、また、東海道は文雅を好む駿河の文化人々と京や江戸の絵師たちとの交友を可能にしました。円山応挙一門や司馬江漢などの作品をあわせて展示し、東海道が育んだ駿河の美術や文化を改めて見つめなおします。



《東海道図屏風》(右隻) 江戸時代 静岡市

2020しずおか文化プロジェクト ショパンー200年の肖像

2020年8月1日(土)ー9月22日(火・祝)

日本をはじめ世界中で今も愛され続ける、ポーランド出身の作曲家フリデリク・ショパン(1810-1849)。繊細な曲調のピアノ曲を多く作曲したことから、「ピアノの詩人」と呼ばれ、ピアノ音楽の表現様式を拡大したことで知られています。日本・ポーランド国交樹立100周年(1919-2019)を記念して開催される本展では、「ポロネーズ へ短調 作品71-3」の贈呈用自筆譜をはじめ、ポーランド国外では見る機会の少ない貴重な資料や、ショパンの生きた19世紀に制作された多彩な美術作品を中心に、生誕から現在までの約200年にわたる様々なショパン像をご紹介します。

※展示内容は変更する場合があります。

フリデリク・ショパン
《ポロネーズ へ短調 作品71-3、自筆譜(贈呈用)》
1836年
国立フリデリク・ショパン研究所附属フリデリク・ショパン博物館
photo: The Fryderyk Chopin Institute



静岡市美術館開館10周年記念 生誕110年・没後30年 絵本画家・赤羽末吉展(仮)

2020年10月3日(土)ー11月29日(日)

日本の絵本の可能性を大きく切り開いた絵本画家・赤羽末吉(1910-1990)。22歳で満洲(中国東北部)へ渡り日本画家として活躍する一方、その風土が育んだ市井の人々のくらしに深い関心を寄せます。引揚げ後、50歳のときに手がけた『かさじぞう』で絵本画家として遅咲きのデビューを果たすと、以後『スーホの白い馬』など、ふたつの「郷土」の美しさとそこに生きる人々の姿を描き続けました。本展ではちひろ美術館所蔵の絵本原画とともに、取材時のスケッチや写真、制作過程の貴重な資料など約200点をとおして、赤羽末吉の画業の全体像をご紹介します。



子どもから大人まで！
人気の絵本原画展



赤羽末吉《『スーホの白い馬』表紙》(部分) 1967年 ちひろ美術館

静岡市美術館開館10周年記念 ライデン国立古代博物館所蔵 古代エジプト展

2020年12月19日(土)ー2021年3月31日(水)

ヨーロッパの5大エジプト・コレクションで知られるオランダ・ライデン国立古代博物館は、世界で最も古い国立博物館の一つです。本展では質量ともに優れた本コレクションより、人や動物のミイラや棺、石碑、貴重なパピルスなど約250点を厳選し古代エジプトの世界を展覧します。また同館の長年の調査研究で明らかになった古代エジプト人の生活や社会、死生観などを紹介するとともに、本展に出品されるミイラのCTスキャンの成果を世界初公開するなど、最新の科学技術による、当時の人々の医学的な知識やミイラ作りの過程、色やかたちに対する美意識なども解き明かします。



当館初の文明展！
人のミイラは5体！



《ホルの外棺》後期王朝時代 すべてライデン国立古代博物館
©Rijksmuseum van Oudheden (Leiden, the Netherlands)

10周年企画② 「鈴木康広 まばたきの葉（仮）」

鈴木康広（1979年浜松市生まれ）は、日常の見慣れた事象に新鮮な切り口を与える作品によって、ものの見方や世界の捉え方を問いかける活動を続けています。

2010年5月の開館時、展覧会事業が始まる前のエントランスホールに、代表作のひとつ「まばたきの葉」を展示しました。来館者が葉を入れることで木の形が空間に出来上がるこの作品は、「見る」ことに潜む可能性を気付かせるだけでなく、開館したばかりの美術館の空間と市民をつなげてくれた当館にとっても大事な作品です。

開館10周年を記念し、再び「まばたきの葉」がエントランスホールに登場します。10年という「時間」や「記憶」を見つめることで、過去 / 現在 / 未来の新しい関係性が立ち上がってくるでしょう。



2010年当館での展示の様子
Photo/Katsuhiko Ichikawa

会期：2020年4月21日（火） - 5月10日（日）
休館日：毎週月曜日 ※ただし5月4日は開館、5月7日（木）は休館
場所：静岡市美術館 エントランスホール

観覧無料

10周年企画③ 参加型公開制作

「柿木原さんとタイルで美術館のロゴマークをつくろう」(仮)



館内のモザイクタイルの案内サインは、美術館開館の2ヶ月前に当館のロゴマークをデザインしたアートディレクター柿木原政広氏と市民とともにワークショップで制作したものです。まっさらな美術館に初めて飾られた“作品”としての案内サインは、開館以来多くの来館者を迎えてきました。開館10周年を記念し、案内サインと同じモザイクタイルでロゴマークを制作します。どなたでもタイルの貼り付け作業に参加できる、参加型公開制作です。

日時：5月上旬を予定
講師：柿木原政広（アートディレクター）

※詳細は決定次第HPにてお知らせします



10周年企画④ 開館記念日プレゼント！

5月1日は静岡市美術館の開館記念日です。

当日「ミュシャと日本、日本とオルリック めぐるジャポニスム」をご観覧の先着50名様に当館オリジナルグッズをプレゼントします。

配布日：2020年5月1日（金）

10周年ロゴ缶バッジ（イメージ）
※プレゼント内容は変更になる可能性があります




そのほか様々な10周年記念企画を計画中です。
今後、詳細は決定次第プレスリリースやHPにてお知らせします。

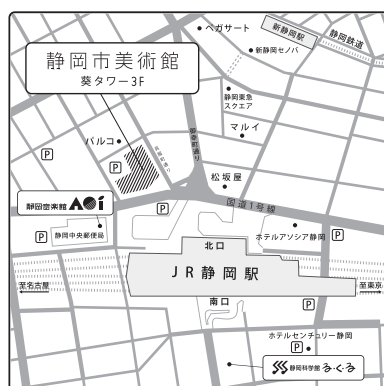
www.shizubi.jp

2020年4月上旬、リニューアル予定！
過去の展覧会、イベントアーカイブはHPをご覧ください



静岡市美術館公式アカウント →  shizubi_jp

follow us



- 《電車》 JR静岡駅北口より地下道を利用して徒歩3分
静岡鉄道新静岡駅より徒歩5分
- 《新幹線》 東京駅・名古屋駅から東海道新幹線ひかり号で約1時間
新大阪駅から東海道新幹線ひかり号で約2時間
- 《車》 東名静岡ICより約15分
※お車で越しの際は、近隣の駐車場をご利用ください。
- 《空路》 富士山静岡空港より静鉄バス
(静岡エアポートライナー)で約1時間

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518